

SDGsとJICAの取組

(生物多様性保全分野)



2019年 3月25日

JICA企画部参事役 (SDGs推進班) 小田 亜紀子

本日のご説明内容

1. JICAは途上国のSDGs達成のため、国内外アクターとのパートナーシップを推進。
2. JICAの「強み」は途上国政府からの信頼、国内・海外の拠点・人材のネットワーク。
3. 生物多様性保全分野でも、日本・途上国の研究機関・民間セクターとのパートナーシップで、生態系研究・保全・エコツーリズムなどを推進。

JICAのSDGs達成に向けたアクション

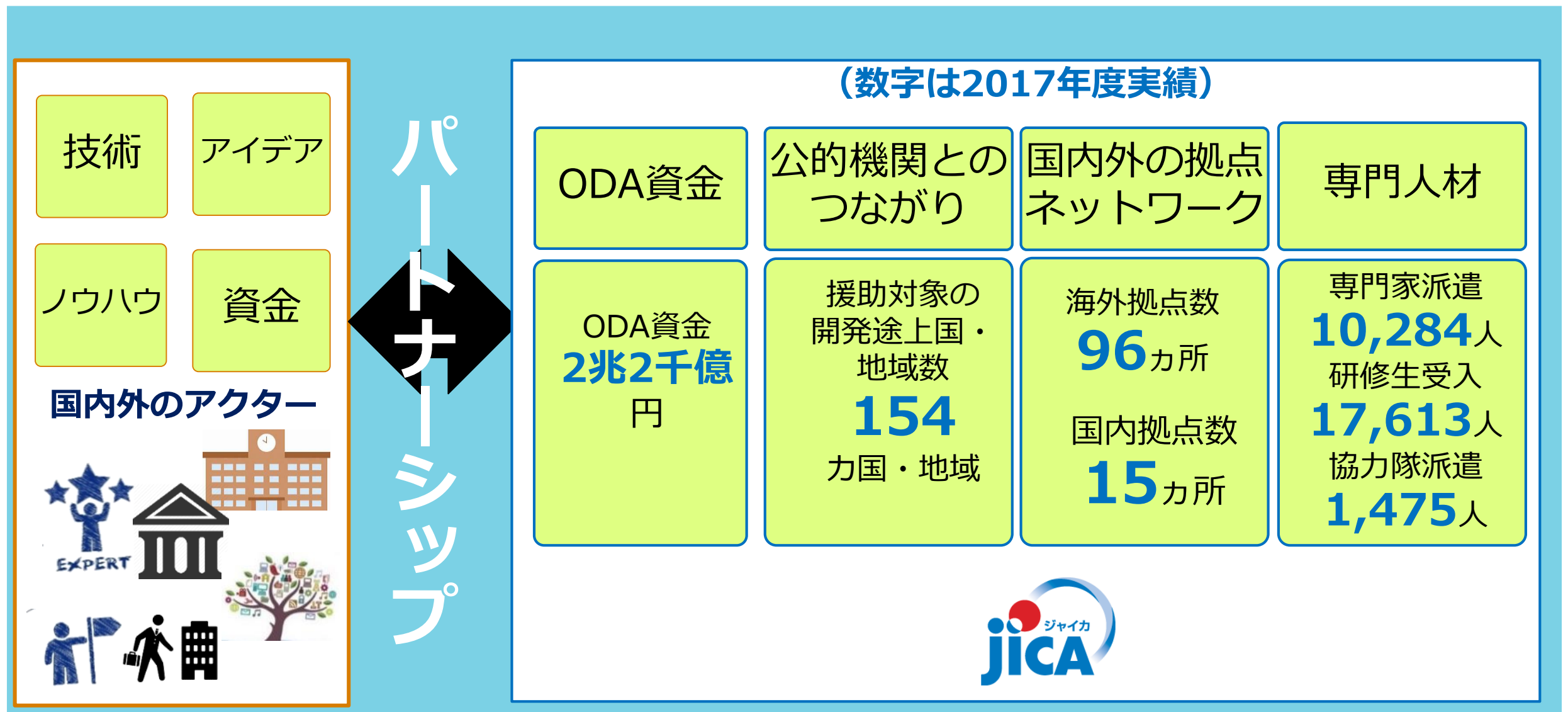
1 JICAは、人間の安全保障と質の高い成長を加速・推進するSDGsにおいて、リーダーシップを発揮し、ゴールの達成に積極的に取り組む。

2 JICAは、我が国自身と開発協力の経験を活かし、SDGsの10のゴールについて中心的役割を果たす。



3 JICAは、SDGs達成を加速するため、国内の知見の活用、国内外のパートナーとの連携、イノベーションを図り、SDGsの達成に向けてインパクトを確保する。

JICAは多様なアクターとのパートナーシップで途上国の課題解決＝SDGs達成を目指す



(民間企業・行政機関・開発コンサルタント・大学・研究機関・起業家・NGO/NPOなどなど)



取組事例：アマゾン生物多様性保全

ブラジル：「フィールドミュージアム」構想によるアマゾンの生物多様性保全プロジェクト



1. 日・伯の共同研究でアマゾンの生態系研究を推進（水生哺乳類、魚類、熱帯雨林上層部研究など）
2. 研究成果と日本の先端技術、飼育・展示技術を活かし、「フィールドミュージアム」（「FM」：アマゾン生態系の研究・保全・環境教育・エコツーリズムの拠点）を整備
3. 環境教育・エコツーリズムを通じ、地元コミュニティに貢献する自然観察施設と保護区のネットワークを構築

<プロジェクト対象地域>

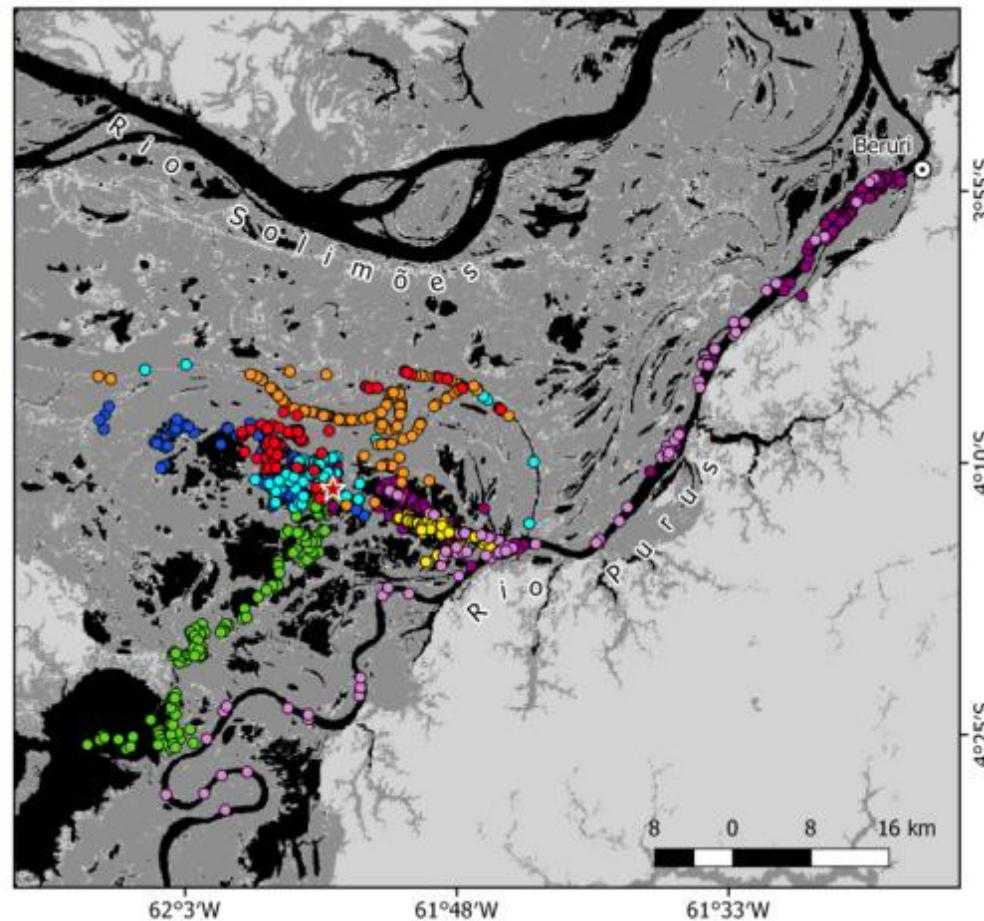
（FMの自立的運営・活用のしくみも構築）

クイエiras・フィールドステーション



- 森と川の結びつきの場「浸水林」
- 「動物-植物相互作用」の長期間モニタリングに最適の場所
- 地元住民と連携するエコツーリズム にも活用

プルス川（アマゾン川支流）のマナティ放流



1. マナティ19頭を放流。体重増加から順調な野生復帰を確認

2. 元猟師によるモニタリングを実施

3. 地域住民・子供たちへの環境教育も実施



日・伯の幅広いパートナーシップ



信頼で世界をつなぐ Leading the world with trust



JICAウェブサイトもぜひご覧ください！

